

# 人生100年時代、臨床に注力しつつ 複数のポトフォリオを持つことが主流に

佐藤：柴田先生は今、子育てをしながらこれまでと同じように働いていらっしゃいます。

柴田：はい。実は今、特別養子縁組で親子になった1歳のこの子をパートナーと育てています。私はもともと子どもが大好きで育てたいという気持ちがあったのですが、自分で出産することに対する強い思いはありませんでした。最初は自分たちで妊娠をして、体外受精もしましたが妊娠しなかったため、パートナーと話し合って特別養子縁組を選択したのです。この子は、生まれてすぐに実母からお預かりし、一緒に暮らしています。一般企業に務めるパートナーは3カ月間の育休を取得してくれました。子どもは生後4カ月から認可保育所に入り、私は常勤のまま働いて、現在も当直とオンコールをしています。

特別養子縁組を選んだのは、実親が育てられない子どもたちに対して、自分ができる範囲で何かをしたいと思ったからです。産婦人科医として働く中で、飛

## 実親が育てられない 子どもを預かり家族に 特別養子縁組で母になる



び込み分娩後に「育てられない」と乳児院に預けられる子どもを何人も見てきました。また、生まれた直後に公園やロッカーに遺棄されてしまう子どももいます。日本は社会的養護といつて、実親に育てられない子どもが約4万人もいるのです。こうしたことを知る中で、自分にできることをしたいという思いもあり、特別養子縁組をさせてもらいました。実際に育ててみると、人を1人育てることがこれほど大変なのだ、と痛感しています。病

院と家庭という2つの職場で2つの異なる仕事を抱え、そこを往復しているような感覚ですね。子どもを育て始めてから、街中を歩くお母さんやお父さんへの尊敬の念が強くなりました。

佐藤：職場の人たちの理解を得ながら、ご夫婦で協力して子育てされているんですね。育児をしながら働く場合に、理想の職場像はありますか。

柴田：医師として働きながら子育てすることを考えたら、ハード面では院内保育と病児保育は最低限絶対に必要ですね。今は平日の当直は免除してもらい、土日メインに当直しています。土日はパートナーがワンオペ育児で、平日は保育園に預けています。勤務先の病院は病児保育があるので、子どもに熱が出て民間の保育園に預けられないときに助かっています。うちの子は2週間に1回は必ず熱を出しているのですが、もしも病院に病児保育がなかったら、休んでばかりになってしまったと思います。今の課題のひとつは「小学校

### PROFILE 佐藤 佳澄 さとう かすみ

秋田大学大学院医学系研究科 救急・集中治療医学講座 助教。2015年秋田大学医学部を卒業後、2017年に同講座に入局。市中の関連病院などで研鑽を積み、救急科専門医、集中治療専門医を取得。2022年、秋田大学大学院医学系研究科 博士課程 卒業。2022年より現職。血液浄化療法の研究とCase reportの執筆・指導に力を入れている。秋田県の救急医療の標準化の必要性を感じ、救急医を志した。2021年には血液浄化の研究に関連し「井上學術奨励賞」受賞。2023年には「第50回 日本集中治療医学会学術集会 若手教育講演部門賞」を受賞した。

1年生の壁」です。働く親にとつて保育園は素晴らしい存在で、長時間預かってもらうことができます。それが小学校にあがったとたん、夏冬に長期休みがあったり平日は3時、4時に帰ってきたりなど、学童保育が少なく地域では仕事と子育ての両立は本当に大変だと感じています。佐藤：なるほど。実際に子育てをしてみると、子育て中の医

